

日清製粉グループ 連結決算、次期連結業績予想

当期、減収減益。次期の売上高は増収、利益面では減価償却制度の変更の影響により減益の見込みであるが、上期をボトムに業績を回復基調に戻すべく取組みを進める。

〔平成19年3月期連結決算〕

株式会社日清製粉グループ本社（社長 長谷川 浩嗣）の平成19年3月期につきましては、各事業において積極的な販売促進活動や新市場開拓を進め出荷伸長を図るとともに、引続きコスト削減を実施してまいりました。しかしながら、健康食品事業において主力のコエンザイムQ₁₀の供給過剰に伴う原体価格の下落とそれに伴う出荷減少により業績が悪化しました。また、中食・惣菜事業の進捗の遅れと改善施策に係る経費投入の影響に加えて、製粉、加工食品事業等でのシェア拡大に向けた販売促進費の投入、出荷構成の悪化や原油高、穀物相場高、円安等によるコストアップの影響で連結業績は前年を下回りました。

売上高は4,181億90百万円（前期比99.2%）と減収となり、また経常利益は228億15百万円（前期比92.1%）、当期純利益は123億3百万円（前期比90.9%）とそれぞれ減益となりました。

会社の利益配分に関しましては、現在及び将来の収益状況及び財務状況を勘案するとともに、連結ベースでの配当性向については30%以上を基準として、株主の皆様のご期待に応じてまいります。当期の年間配当につきましては、前期に引続き1株当たり18円とさせていただきます。期末配当を9円とする剰余金の配当に関する議案を定時株主総会に付議させていただきます。

〔平成20年3月期連結業績予想〕

当社グループでは減価償却制度の変更が、業績へ影響を与えることとなりますが、平成19年度上期をボトムとし業績を回復基調に戻すべく、取組みを進めてまいります。

国内においては、原油高、円安等種々のコスト高に対応するため、調達コストに見合った適正な利益の確保に努めると同時に、主力の製粉、加工食品事業は生産性の向上、一層のシェアアップ、次世代新製品の開発のスピードアップを実現します。また、中食・惣菜事業は早期に当初計画に追いつくべく改善施策に取り組むとともに売上げ拡大に努めます。さらに、健康食品事業は製造、販売体制の見直しを進めると同時に、消費者向け製品の開発のスピードを加速させていきます。

海外においては中国のプレミックス事業は新工場が稼働し、新たなステップを踏み出ししており、更なる売上げ増加を図っていきます。また、北米製粉事業でのコスト競争力及び販売競争力の強化を進めると同時に、タイの製粉工場から中国市場向けの小麦粉出荷増加を図り、連結収益向上に貢献いたします。

以上より平成20年3月期の連結業績予想におきましては、売上高は4,300億円（前期比102.8%）と増収となりますが、利益面では減価償却制度の変更の影響により経常利益は226億円（前期比99.1%）、当期純利益は120億円（前期比97.5%）と減益となる見込みです。

以 上